

市民協働で進めるフェニックスプロジェクト ～子ども達が誇りを持って暮らせるまちに～

7. 13 水害、中越大震災から 10 年を迎えるメモリアルイヤーにおいて、亡くなられた方への追悼と支援への感謝の想いを市民がひとつにするため、「復興 10 年フェニックスプロジェクト」というひとつのベクトルを定め、様々な事業を展開してきました。

復興に携わってきた各団体が想いを共有し、復興 10 年事業を一体となって進めることにより、広く全国に向け、また、10 年 20 年先の長岡に向けて、その想いを発信し、子ども達が誇りを持てるような未来を創っていく、という願いがこのプロジェクトには込められています。

不死鳥のごとく復興を果たした長岡の姿が、東日本大震災の希望の光となるよう、経験と教訓、感謝の気持ちを全国へ、次世代に引き継ぐため、その想いをこの記録集にまとめました。

「一人ひとりの力は小さくとも、それがまとまれば大きな力になる。」

災害を経験し、復興を果たした我々だからこそ、それを伝えていくことができます。そして、これからも長岡の先人たちにならい、今の時代を生きる大人として、地域のために尽くす姿を未来を担う子ども達に見せていきたいと思えます。

このプロジェクトにおいて 1 年築いてきた市民協働、官民連携のスキームは、これからの長岡のまちづくりに大きな力となるものと確信しています。

そのさきの未来へ向け、「フェニックスプロジェクト」は全国へ、そして未来へ、子ども達が誇りを持って暮らせるまちを目指します。

平成 27 年 3 月

復興 10 年フェニックスプロジェクト推進会議

座長 樋口 勝博

